



川越市立大東西中学校 学校だより

きらめき

令和8年5月12日発行
第2号
川越市立大東西中学校
校長 小川 潤也

学校教育目標 『豊かな心をもち、たくましい生徒 ～ 夢や希望をもつ生徒 ～ 』

○自ら考え、自ら学ぶ生徒 ○豊かな心を育む生徒 ○心身の健康に努める生徒

「あいさつ」がつくる西中の空気

新しい学年が始まり1か月が過ぎました。学校には毎日たくさんの笑顔や会話があふれています。朝、元気に「おはようございます」と声を掛け合う姿を見るたびに、学校は人と人とのつながりの中で成り立っているのだと感じます。

学校というと、「勉強をする場所」というイメージを持つかもしれません。もちろん、授業を通して知識を身に付けることはとても大切です。しかし、学校はそれだけではありません。

友達との関わり方を学ぶ場所。

相手を思いやる心を育てる場所。

そして、自分の言葉で気持ちを伝えることを学ぶ場所でもあります。

その中でも、毎日の学校生活の第一歩になるのが「あいさつ」だと思っています。朝、友達から「おはよう」と声を掛けられるだけで、少し安心したり、元気が出たりした経験はないでしょうか。先生から「頑張っているね」と言われて嬉しくなったことがある人もいると思います。反対に、冷たい言葉を掛けられたり、無視をされたりすると、それだけで気持ちが沈んでしまうこともあります。それほど、言葉には人の心を動かす力があります。

また、あいさつには、その場の空気を変える力もあります。朝、元気な挨拶が響く日は、学校全体が明るい雰囲気になります。静かな朝でも、一人の「おはようございます」がきっかけとなって、その空気が少しずつ温かくなることがあります。「あいさつ」という言葉には、「相手に心を開く」という意味が込められているそうです。ただ声を出せばよいのではなく、相手の顔を見て、自分から気持ちを届けようとするのが大切なのだと思います。

同じ「おはようございます」でも、表情や声の出し方によって、相手に伝わる気持ちは大きく変わります。心のこもった挨拶は、「自分を大切に思ってくれている」と感じてもらえるきっかけにもなります。

今は、スマートフォンやインターネットで簡単につながることができる時代です。SNSで気軽にやり取りできる便利さがある一方で、直接顔を見て言葉を交わす機会は少なくなっているようにも感じます。

しかし、直接交わす言葉には、それとは違う温かさがあります。相手の表情を見ながら伝える「ありがとう」や「おはようございます」は、人と人との距離を近づけてくれる大切なコミュニケーションです。

皆さんの「おはようございます」の一言で、元気になる人がいます。安心する人がいます。そして、「今日も頑張ろう」と思える人がいます。

西中学校には、「とどけ挨拶、ひらけ朝読書、ひびけ歌声、みがけ清掃」という4つの伝統があります。その中の一つ目「とどけ挨拶」は、ただ大きな声を出すことではなく、「相手に気持ちを届ける挨拶をしよう」という思いが込められているのだと思います。

実際に学校生活の中でも、登校時に地域の方へ挨拶をする姿や、友達同士で自然に声を掛け合う姿をたくさん見ることができます。そうした一つ一つの積み重ねが、西中学校の温かい雰囲気につながっているのだと感じています。

詩人の相田みつをさんは、こんな言葉を残しています。

「あいさつは 心を開く 小さな扉」

皆さん一人一人の言葉や行動が、西中学校の雰囲気をつくっています。これからも、相手の心に届く挨拶や言葉を大切にしながら、みんなでよりよい西中学校をつくっていきましょう。